

建材会社と高専、壁材を開発中

舞鶴「赤れんがの街並みに」

舞鶴市の住宅リフォーム建材通販会社が、建築廃材を再利用した赤れんが風壁材の開発を舞鶴工業高等専門学校(同市白屋)と共同で進めている。安価で軽量な「赤れんが」で、「市民の日曜大工で舞鶴に赤れんがの街並みを広げたい」といい、市も「景観保全に貢献する」として支援を決めた。

「景観保全に貢献」市も支援



建築廃材をリサイクルした「赤れんが風」のリフォーム壁材

(舞鶴市喜多・DIY STYLE)

同市喜多の「DIY STYLE」。従業員5人の小さな会社で、日曜大工リフォームのための床材などをインターネットで販売している。

市内の赤れんがパークには重要文化財の赤れんが倉庫群があるが、森本隆社長(41)は「倉庫群以外に赤れんが建物はほとんど見られず、調和の取れた街並みになっていない」。昨年末に手軽に扱える「赤れんが」建材の開発に着手、舞鶴高専の協力を得て今年6月に試作品が完成した。価格を抑えるため、ガラスなどの建築廃材

安価で軽量、来夏販売へ

を使用。手触りや色も赤れんがに近い。重さは実際の赤れんがの半分程度で、テープで壁に簡単に貼り付けことができる。

市販に向けて8月に商品開発を支援する市の制度に応募。赤れんが倉庫群を観光振興の柱に据える市は「観光客誘致に効果がある」として10月に500万円の補助金を交付。同社は補助金を活用して凍結時の強度向上や、手触り、色合いなどの改良を進め、来年夏から販売する予定。

森本社長は「一般家庭や事業所に広がらないと、舞鶴は真の赤れんがの街にならない。将来は観光客向けの赤れんが作り体験工房も設置したい」としている。(竹下大輔)